

28U-pm15

喘息患者に対するコンプライアンス向上のための薬剤師の役割 ～調剤薬局と病院との比較～ (アンケート調査に基づいて)

○米田 矩子¹, 林 紗江¹, 糸川 文乃¹, 山本 育由¹ (¹同志社女大薬)

【目的】喘息治療は長期にわたるため管理が難しく、また場合によっては命を落とす危険性もあり、病院や薬局の薬剤師によるサポートが重要であるといえる。今回のアンケートでは、病院と薬局の薬剤師が、患者の服薬履行度を向上させるためのそれぞれの役割について調査することにした。

【調査方法】全国の大きな医療機関近辺にある薬局から無作為に選んだ薬局 200 施設と、病床数 200 床以上の病院の中から、無作為に選んだ病院 178 施設にアンケートを発送し、回収できた薬局 67 施設(回収率 33.5%)、病院 84 施設(回収率 47.2%)のアンケートを集計し、考察した。

【結果】『再入院率はどれくらいか』の質問に対して、病院、薬局共に『把握できていない』との回答が大多数を占めた。『再入院の原因はどこにあると思うか』の質問に対して①薬になって治ったと思い吸入をやめてしまったため(病院:31%、薬局:24%)、②吸入指導を受けたが正しい吸入ができていなかったため(病院:23%、薬局:20%)、③吸入器の使い方が難しかったため(病院:13%、薬局 20%)との回答が半数以上を占めていた。『吸入指導の回数』、『どのような時に吸入指導を行っているか』の質問に対しては、病院と薬局での回答には差異が見られなかった。

【考察】再入院率を薬局および病院で把握できていないことは、問題に思われる。患者に吸入指導をし、本当に理解できたかのチェックが不十分であったように思われる。薬局薬剤師と病院薬剤師との間で情報を共有して再入院率を減少させることを共通の課題として取り組む必要がある。この問題を解決する方法として、共通のチェックリストなどを作成し、相互に活用し薬局と病院の連携を強めて、患者の正しい吸入方法について理解度を常に把握する体制の構築が必要と考える。